

# いっぱい つかって なにしよう 紙コップをならべて つんで

幼児期の育ちを生かす  
小学校第1学年における環境の構成の工夫



群馬県総合教育センター

幼児教育センター

長期研修員 大塚 あゆみ

～ 「発達に基づいた環境の構成モデル」を  
活用した児童理解を通して

9月のある朝、あゆみ先生は、教室で子供たちの様子を見て、  
思いました。

「みんな、運動会やバス旅行等の行事を通して  
たくましく成長しているなあ」

その日の給食の時間のことです。

給食当番の児童が皿を落としてしまいました。

子供たちは給食当番の友達に「大丈夫？」と優しく声を  
かけますが、皿を拾うなどの行動にはなかなか移りませんでした。

また、あゆみ先生が「ノートを配ってほしいな」とお願いすると、  
返事はするものの、その後に行動が伴わない場合も見られました。

相手の様子を感じ取り、言葉で思いを伝えようとする姿が  
少しずつ見られるようになってきましたが、  
具体的な行動として表れることは少ないという現状がありました。

あゆみ先生は

“発達に基づいた環境の構成モデル”を読みました。

「なるほど… 9月の1年生は、

自分の思いや考えを主張できるようになる時期なんだ」

“発達に基づいた環境の構成モデル”を  
何度も読みました。

そして、あゆみ先生は ひらめきました。

「そうか。思いやりの気持ちはあるけれど、  
行動には結び付きにくい…  
そこを伸ばす環境の構成を工夫すればいいんだ。  
自分で考えて、試して、友達と力を合わせるような…  
そんな経験ができる授業を」

窓の外から、秋風がそっと吹いてきました。

「そうだ！年間指導計画の中にある  
図工の造形遊び“ いっぱいつかってなにしよう  
～紙コップをならべてつんで～”なら、多様な発想に触れながら、  
相手への思いやりを具体的な行動として表し、もっと成長できそう！」

あゆみ先生は、  
ノートにワクワクする気持ちで授業構想を書きました。

書いているうちに、あゆみ先生の頭の中には、  
子供たちが友達と協力し合い、  
紙コップを並べて積んでいる姿が  
だんだんと浮かんできました。

「きっとみんなの世界は、  
もっともっと 広がる！！」

そうつぶやくと、  
あゆみ先生は  
そっとノートをとじました。



あゆみ先生は子供たちが「紙コップ」と出会う場面では、紙コップを入れた段ボールに布をかけ、「はてなボックス」と名付けて提示しました。

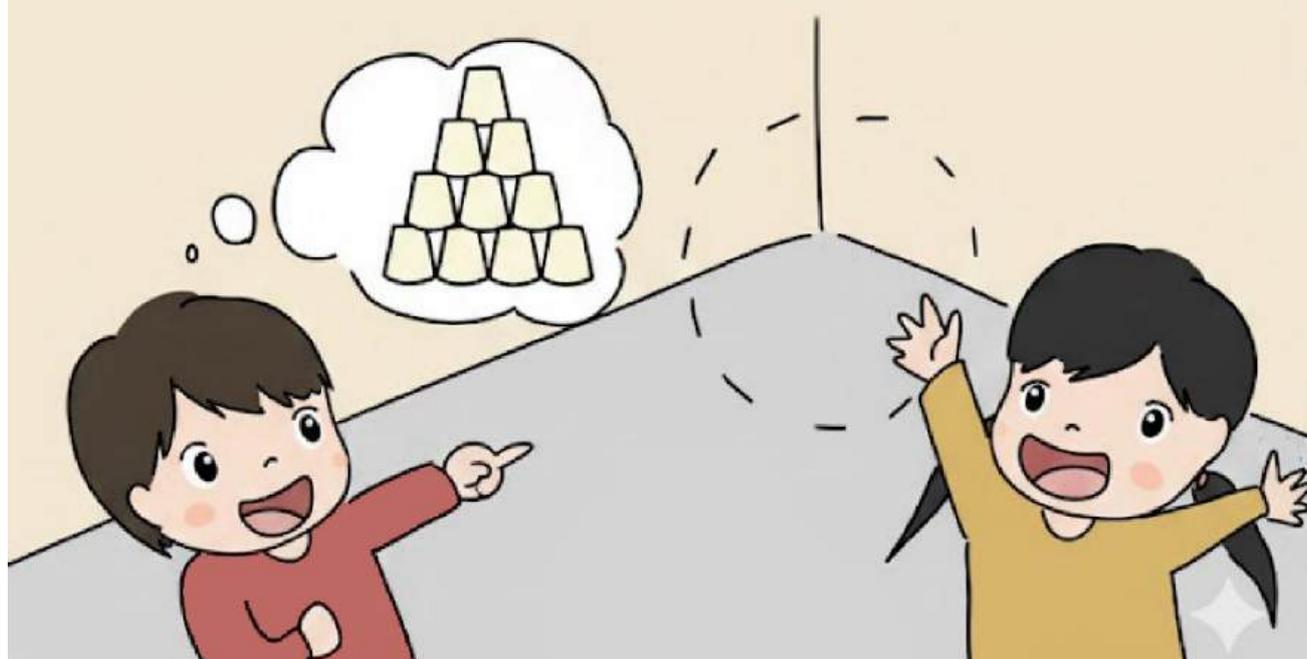


中身を隠すことで「なにが隠れているんだろう？」と子供たちの学習へのワクワク感を高め、活動への意欲が向上するよう工夫しました。

学習で紙コップを使うことが分かってから、紙コップを使って、どのように学習を進めるか考えて、発表し合いました。決まった約束ごとは、「仲よく作ろう」「ゆずりあう」「楽しむ」の三つです。



子供たちは、活動する場所を決めていきます。友達と相談しながら、多目的室のどこで作品を作るか考えていました。



友達と並べたり、積んだり、思い描いているイメージを広げて作っています。



幼小連携の一環として、  
小学校への入学に対してわくわく感や安心感をもてるように、  
園児たちが1年生の授業参観に来ました。

最初は、緊張していた園児たちも、  
1年生と一緒に紙コップを積むうちに、自然と会話が増え、  
気が付くと教室には紙コップの街が広がっていました。



さあ！魔法の時間です。  
魔法使いに変身したあゆみ先生が  
部屋の電気を消して、音楽をかけ、  
「みんなの作品に魔法をかけてみるね！」  
と言いました。

「光をあてるとどうなるかな？」



影がおもしろい!

東京タワーだ!



活動の最後には、振り返りです。

友達の作品を見て、感じたことを発表し合ひましょう。

お互い認め合う事で、作品を作る楽しさを共有します。



たくさん楽しんだ後は、みんなで協力して片付けます。



# この授業を通して発揮された 非認知能力は...

## コミュニケーション能力



協調性・協働性

共感性・思いやり

好奇心

想像性

感受性

自制心

探究心・挑戦意欲

目標への情熱・粘り強さ

